

児童発達支援ガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月

結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員:	5名回答、回答率	100%
保護者様:	15名回答、回答率	88%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・心理士や作業療法士の助言をもとに、訓練室の構造化を図った。療育の流れから導線を考え、児童が療育中にスムーズに移動できるように工夫を行った。
- ・廊下からトイレに行く際に段差があるため、解消するための階段を設置している。

○業務改善

- ・目標設定や振り返りを教室内で共有し、改善へ繋げていけるように努めている。
- ・保護者からの要望や、意見を教室内で共有することが出来ている。
- ・業務の効率化を行う為に、支援計画から個別及び集団療育内で取り組む内容をまとめ、担当指導員がすぐに確認できるよう工夫を行った。
- ・療育記録に引き継ぎ事項を記載するようにし、その時の本児の状態や様子が文章でみて分かるように記録をつけるよう意識した。

○適切な支援の提供

- ・社内の研修を受講することで、支援力の向上に努めている。
- ・適切な支援を行うために、日々の療育の振り返りを行い、個別支援計画に沿った支援を心がけている。

○関係機関や保護者との連携

- ・相談支援事業所と定期的にモニタリングを行う際に、情報交換を行っている。
- ・保護者からのご希望があった際、家族支援や幼稚園、保育園との関係機関連携を行っている。

○保護者への説明責任等

- ・療育の振り返りの時間に、お子様の様子や療育についての説明を行っている。
- ・個別説明会や契約時に説明を行っている。
- ・大型連休、長期休暇、年末年始の教室の運営日については事前に入り口に掲示、または手紙にて配布をしてお知らせを行っている。

○非常時等の対応

- ・月に1回の避難訓練(地震・火災)を行っている。
- ・建物倒壊の恐れがある巨大地震を想定した近隣の小学校へ避難する訓練を職員間で行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・訓練室のスペースは適切であるの項目について、8割以上の方に「はい」と回答頂いたが、「訓練室が活動内容によっては狭いのではないか」という意見も頂いたため、訓練室内の配置等の見直しを行う。

○適切な支援の提供

・「職員が足りていないと思う日がある」「幼児へのかかわり方を勉強してほしい」「小集団の内容と年齢があていないことがある」というご意見をいただいた。

○保護者への説明等

・「フィードバックが全体課題の内容を伝えているため日頃から様子についての共通理解は難しい」「面談時には話せるが、通常の療育では先生と話す時間が無いので、少しの時間でも毎回お話しする時間(その日の体調や心配ごとなど)があったら助かる」というご意見をいただいた。今後は療育前にお子様の様子を伺ったり、フィードバック後の少しの時間でも親御様とコミュニケーションを図り、保護者の方の不安を解消していきたい。今後も希望をいただいた際には家族支援として個別でお子様の様子を伝えるよう努める。

○非常時等の対応

・月に一度避難訓練が行われ、避難訓練の際に避難場所を教えてもらっている。
・身を守るためのダンゴムシのポーズができるようになったり、防災頭巾が被れるようになった。

○満足度

「元々放デイだった先生が入るようになった事で、支援が行き渡ってないなと感じる事がある」「元々通える日数が少ないのに、新しいお友達がどんどん増えて、来年度から通える日数が減ってしまうのか不安」「支援に携わる先生全員に子どもたちへ共通理解を持って関わって欲しい」というご意見をいただいた。秋より規模別多機能型事業所から規模別一体型事業所となり、職員配置も変更となった。今後は教室内での情報交換をこれまで以上に密に行うことでより連携の取れた支援を行っていく。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・保護者会を1年間に1回開催し、その中で保護者同士の連携を支援する。
・指導員は個別支援計画に沿った支援を提供しつつ、担当制ではない強みとして指導員によって形を変える工夫を行い、多彩な内容でのプログラムを提供する様に心がける。

○改善できた点・まだ残る課題

・就学を意識した課題や概念形成に関する課題を取り入れ学習の土台作りを意識した支援を取り入れている。
・アクティベーション・レビューイング時に使用する視覚教材の種類を増やすことや、教材の作成や購入は行っているが、継続して取り組むべき課題として残る。
・保護者会や保護者同士の交流の場を設けることができなかつたため、定期開催できるよう年度計画を立てていく。
・個別支援計画をベースに書く指導員が毎回異なった支援を提供できるように、療育記録を確認しつつ、前回行った内容とは別の領域の支援ができるように工夫している。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・全体のフィードバック後に個別でお声がけしているので親身に関わろうとしている。
- ・教室内で新人研修も行っており、指導員の対応が向上するよう図っている。
- ・教室内をできる限り清潔に整え、安心・安全に療育を行えるよう意識している。
- ・お子様の課題を正確に把握し、できる限り保護者様のニーズに応えられるよう日々取り組んでいる。

○改善点

- ・教材をバリエーション豊かに揃えていきたい。
- ・保護者同士が交流する機会を設ける。
- ・同じ年齢や発達段階のグループ分けをなるべくできるように調整していきたい。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・保護者同士が交流する機会が欲しいというご意見を受けて、1年に1度保護者様が交流することが出来る保護者会を開催できるように準備を行う。
- ・心理士、作業療法士から引き続き助言をいただきながら療育や教材を増やし、提供できるようにしていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者会を1年間に1回開催し、その中で保護者同士の連携を支援する。
- ・指導員は個別支援計画に沿った支援を提供しつつ、多彩な内容でのプログラムを提供する様に心がける。
- ・年度替わりなどの際に、同じ年齢や発達段階のグループ分けをできるように枠によって調整を行う。
- ・教室スタッフ間で教材の案を出し合い、教材のバリエーションを増やしていけるようにする。